

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2020.3) 令和元年度:5.

前立腺全摘除術後6患者の尿失禁に対する骨盤底筋運動の実態

大橋 優花

前立腺全摘除術後患者の尿失禁に対する骨盤底筋運動の実態

旭川医科大学病院 7階西ナーステーション 大橋優花

【目的】前立腺全摘除術を施行した患者の骨盤底筋運動の実施状況や運動を実施する上での困難、日常生活への工夫について明らかにする。

【方法】術直後に高度尿失禁であった2名に対して面接を行い設問ごとにまとめた。対象者には、学会等で公表する際には個人情報保護することを説明し同意を得た。

【結果】2名とも入院中に看護師から運動について説明をされており、運動に対する難しさや困難は感じてはいなかった。しかし、A氏は退院後運動を継続してはず、B氏は継続していた。

【考察】共通点から、看護師と理学療法士で情報共有して患者状況を理解し、生活の中に骨盤底筋運動を取り入れていけるかを考えていくことが必要であると考え。また、実行性の差については、B氏は車移動の仕事が多く、すぐにトイレに行けない環境であったことなどから不安が増強し、尿失禁の改善を望む切迫感が強く、危機感に繋がっていたと考える。尿失禁改善への気持ちが精神的不安の解消にも繋がっていた可能性がある。A氏は、トイレがすぐに行ける環境であったことや尿失禁が改善することを待てる精神的余裕があったため、危機感は生まれず、行動するに至らなかったと考えられる。よって、患者が尿失禁や骨盤底筋運動をどのように感じ、運動の有効性を理解しているか、日常生活をイメージした際に障害となるものは何かなどを関わりの中で理解し、解決できる方法を検討していく必要がある。